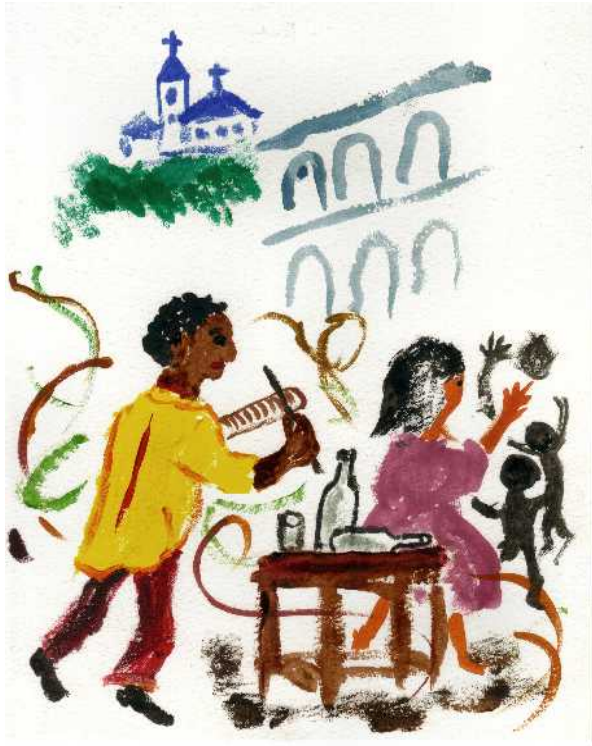


ワールド・ミュージックの館 ～峰 万里恵と仲間たち～

第3回

Fiesta!!!



峰 万里恵(うた) 齋藤 徹(コントラバス) 喜多 直毅(ヴァイオリン) 高場 将美(ギター、話し)

2011年12月24日 cafe&space ポレポレ坐

<I>

1. ア・フェリシダーチ (しあわせ) *A felicidade*

作詞：ヴィニーシウス・ヂ・モライス
Vinicius de Moraes
作曲：アントニオ・カルロス・ジョビン
Tom Jobim

ブラジルのリオのカーニバルにギリシア神話をかぶせた、詩人ヴィニーシウス作の戯曲にもとづくフランス映画『黒いオルフェ』（マルセル・カミュ監督 1959年）の挿入歌のひとつです。20世紀後半のブラジル音楽最大の創造者ジョビンがつくったメロディに、ヴィニーシウスが作詞。

悲しみ それには終わりが無い……
しあわせには、ある……

しあわせは1枚の羽のよう、それを風が空気のなかを運んでゆく。あんなに軽く飛んで、でも命は短い。風が止まらずに吹きつづけなければならぬ。

貧しいもののしあわせは、まるでカーニヴァルの大きな幻影のようだ。ひとびとは働く、1年ちゅう、たった1瞬の夢のゆえに。ファンタジー（カーニバル・パレードの衣装）をつくるため——王様の、あるいは海賊、花園の娘……そしてすべては木曜日に終わってしまう。

しあわせは 1枚の花びらの上の露のひとしずくのようだ。じっと静かに輝いている。それから軽く転がって揺れ、愛の涙のように落ちる。

わたしのしあわせは いま夢を見ている、わたしの恋人の目の中で。それは今夜のようだ、通り過ぎてゆく夜明けを求めて。

小さな声で話してください、お願いします。彼女が朝のように楽しく目覚めるように——愛のキスをさしだしながら。

悲しみ それには終わりが無い……
しあわせには、ある……

2. リスボンのにおい

Cheira a Lisboa

作詞：セーガル・ド・オリヴェイラ
César de Oliveira
作曲：カルロシュ・ディーアシュ
Carlos Dias

ポルトガルの首都リスボンは、6月に守護聖人サント・アントニオなどの日などがあって、お祭りのシーズンです。1950年代から、たぶんリオのカーニバルに着想を得て、各地区のダンス・チームが、パレードして競い合うイベントが盛んになりました。音楽はマルシャ（英語のマーチにあたる）です。マルシャは、「行進曲」と訳すしかないので、足並みそろえて行進するのではなく、スペインのパソ・ドブレ（トゥー・ステップ）と同様に、

素朴なリズムのダンス音楽です。マルシャ曲のコンクールは今も毎年開かれています。

この曲は、マルシャのスタンダード曲のひとつ。1969年にレビュウのために作詞作曲され、女優（コメディエンヌ）歌手のアニータ・ゲレイロさんが初演者です。

リスボンにはもう太陽がある、でも月のにおいがする、ひっそりと夜明けが生まれるとき。そして通りを走りだす最初の市街電車は リベイラ（海岸地区）の石畳の歩道の 魚売り女たちのサンダルとコーラスする。

雨が降れば 約束の土地のにおいがする。聖体行列はラヴェンダーのにおい。いちばん隠れた小路の食堂では、彼女（ポテト）付きレバー煮込みとワインのにおい。

とある屋根裏部屋に 1輪のカーネーション。いいにおいがする、リスボンのにおいがする。

森の公園で咲いている1輪のバラ。いいにおいがする、リスボンのにおいがする。

へさきを高く上げる2本マストの帆船。わがもの顔に通っていく魚売り女。いいにおいがする、リスボンのものだから。

リスボンには、花たちと 海のにおいがある。

3. ながいクリスマス *Amarga navidad*

作詞作曲：ホセ・アルフレード・ヒメーネス
José Alfredo Jiménez

カンシオン・ランチェーラ（牧場風の歌）は、メキシコ人の誇り高い感情を代表する歌謡曲として、1930年代に生まれたジャンルです。1950年代には、ローカル色を離れても共感を呼ぶ、生々しい人間の心を描く（自分自身の心だったんですが）作者ホセ・アルフレードが登場して、このジャンルにさらに豊かな生命を与えました。

この曲は、女性歌手アマリア・メンドーサさんのためにつくったよう（1954年）。その後、作者自身も録音しました。クリスマスにテキーラを注いで、メキシコならではの別離のドラマにしてしまう、さすがホセ・アルフレードの、歌つくりの名人芸です。

きっぱりと終わらせなさい、ただの一撃で。どうしてあなたは わたしを 少しずつ殺そうとするんですか？

あなたがわたしを見捨てる日がやってくるのなら、心のひと、わたしは それが今夜のほうがいい。

12月というところは気に入りました、あなたが去っていくために。あなたの冷酷なさようなら、わたしのクリスマスになるのがいい。

わたしは この同じ愛とともに新年を始めたくない——わたしをこん

なに苦しめる愛とともに。

そしてもう、たくさんのことが過ぎた後に、あなたが後悔していて、とても不安になっているとき、あなたは知るでしょう。あなたが置いてきたあのものが あなたがいちばん愛していたものだったと。でももうどうしようもないのだと。

4. ラ・ペレグリナシオン (大草原の聖家族) *La peregrinación*

作詞：フェリクス・ルナ
Félix Luna
作曲：アリエール・ラミーレス
Ariel Ramirez

アルゼンチンの現代フォルクローレ（民俗音楽に根ざしたポピュラー音楽）によるクリスマスの歌。この曲のリズムは《ウエージャ》とって、パンパと呼ばれる大草原地帯の舞曲です。ウエージャは、「跡」のこと——はてしない草原では、牛車のわだちの跡、馬の足跡が道になります。

この曲の作詞者はアルゼンチン歴史学者でジャーナリスト。作曲者は『ミサ・クリオーージャ（南アメリカの土地のミサ）』などで、1960年代からフォルクローレを世界のクラシック音楽ファンにもアピールした巨匠です。

わだちの跡をたどって、ヨセフとマリーア。凍りついた大草原を、アザミとイラクサのなかを。

わだちの跡をたどって、野を横切って、休みどころも宿もない。——

歩みつづけなさい。

野の小さな花、風に飛ばされる根のない花。だれもあなたを泊めてくれないのに、あなたはどこで生まれるのか？

どこで生まれるのか、野の小さな花？ あなたは大きくなっているというのに。おびえた小鳩よ、夢を見られないコオロギよ。

わだちの跡をたどって、ヨセフとマリーア。隠れた神様ひとり連れて——だれも知らなかった……

わだちの跡をたどって さすらいの旅人たち。小屋をひとつお貸しく

わだちの跡をたどって いくつもの太陽、いくつもの月。アーモンドの小さな両目、オリーブの実の肌。

アイ 野のロバさん、こげ茶色の牛。わたしの男の子がもうやってくる。場所を明けておくれ。

よしず屋根の小屋、それだけがわたしを守ってくれる。ふたつの友達の息と 澄んだ月。

わだちの跡をたどって、ヨセフとマリーア。隠れた神様ひとり連れて——だれも知らなかった……

5. わたしは眠っていました

Dormía yo

作詞作曲：チャブーカ・グランダ
Chabuca Granda

ペルー独自のワルツに新しい深い世界を与えた創造者である女性、チャブーカさんの、これはビジャンシーコ（クリスマス民謡）です。

朝は 目覚めたとき——晴れわたり、太陽にあふれて——いつもわたしの窓から入ってくる。朝は、楽しい鐘の音。笑い声と熱。

おさなごイエスはもう来た、愛にあふれて。みんなは彼をゆりかごに置いた、12時が鳴ったとき。そしてわたしは眠っていました。

ゆうべ わたしのベッドの足元に、魂のすべてをこめてわたしは置いた、わたしのまずしい 古い 靴を。もしかして見てくれるか……見てくれないかもしれないけれど。

でも朝の太陽に——晴れわたり、太陽にあふれて——おさなごイエスは やってきていた。わたしにキスしてくれていた……そしてわたしは眠りつづけていました。

6. レサバイレ（祈り踊り）の エスコンディード *Escondido de rezabaile*

作詞：ホセ・アントーニオ・ファロ
José Antonio Faro
作曲：ミゲール・アンヘル・トレーホ
Miguel Ángel Trejo
マリオ・アルネード・ガジヨ
Mario Arnedo Gallo

レサ（祈り）とバイレ（ダンス）の合体は、アルゼンチン北西部サンティアゴ州の独自の風習で、祭日やお通夜その他の宗教的な行事につきもののパーティ（？）です。ロウソクを立てて祈っている、そのすぐ横でフォルクローレを踊るのです。この曲は、毎年12月の日曜日におこなわれる、聖ステファンの聖体を運ぶ巡礼の行事の、レサバイレをうたっています。エスコンディードという、男女カップルの「かくれんぼ」の振り付けが入るダンスの形になっています。

作者たちは、1930～60年代に首都ブエノスアイレスで活動していたサンティアゴ人たちです。ファロは弁護士でアマチュア歌手、トレーホはピアニストで、フォルクローレの楽団リーダー、ガジヨは歌手で、たいへん愛され親しまれていたアーティストです。

ボンボがひとつ 遠くでとどろいている。聖エステバンが近づいてくる。ミスキ・マユ（甘い川）の岸を伝って、人々はスママーオまで彼を運んでゆく。

そして夜が来ると 人々は休むだろう、軒のひさしの下で。レサバイレ（祈り+踊り）がはじまるにちがいない。

田舎娘たちとお婆さんたちは ア
ラバンサ (讃歌) をうたう。外で
は男の子たちが、すてきな足さばき
をやっている。

まずロザリオの祈り、それからベ
ンディート (祝福の祈り)。ヴァ
イオリンとボンボたちは ガトを弾
いていく。

もう踊りの輪ができた、年経たタ
ラの木たちの下に。とあるサンティ
アゴの老人の声が聞こえる。古い
ビダーラを泣いている。

子どもたちは黙った。みんな眠っ
てしまった。わたしたちは踊りつづ
けよう、サンバとエスコンディード
で。

みんなをみちびき 泣き虫なのが、
あのお祈り女。祈りと踊りのあいだ
に 朝の光がやってくる。

すてきなレサバイレ、
ふるさとの伝統。
おまえはサンティアゴの
古く 美しい風習。

カルナバリートのダンス→



7. 3つのカルナバリート: 谷間のカーニバル Carnavalito quebradeño 裏切りもののアンデス娘

Cholita traidora

エル・ウマウワケーニョ
(花祭り)

El humahuaqueño

作曲: アバロス兄弟 *Hermanos Ábalos*
／伝承曲 *Popular*／エドムンド・
サルディーバル *Edmundo P. Zaldivar*

カルナバリートとは、インカ帝国時代
から受け継がれた先住民のダンス《ワ
イニョ》の、アルゼンチン北部での呼
び名です。輪になって、あるいは列を
つくって踊ります。フブーイ州ウマウ
ワカ渓谷が本場ということになって
います。

<II>

1. 黄色いシャツ *Camisa amarela*

作詞作曲: アリー・バホーソ
Ary Barroso

リオのカーニバルは、大通り会場の、
あの盛大なページェント・コンクール
だけではありませんね。もっと少人数
のグループでの、楽しみもあります。
この曲の作者は、世界的に有名なサン
バ『ブラジル (ブラジルの水彩画)』
もつくりました。ピアニストで司会者、
楽団リーダーでした。

.....
わたしのヤクザものを大通りで見つ
けた。黄色いシャツ着て、『ア・フロ
リスベアラ』をうたってた。

わたしと連れ立って、家へ帰るよう
に誘った。すると彼は皮肉な笑顔をわ
たしに見せた。アーケードの渦巻き
の中に消えていった。

まったく 大丈夫じゃなかった。わ
たしのヤクザものは ほんとうに す
っかり酔っていた。へべレケで、わけ
もわからずにいた。そのへんをヨロヨ
ロと行った。おしまいには、カーニヴ
アルのグループの中、ヘコヘコを手
にしていた。

もっとあとで彼を見つけた ラパの
坂道の 安酒のカフェで。筋金入りの

お祭り男、5杯めのカシャーサを飲ん
でた。「冗談ごとじゃありません！」

朝の7時に帰ってきた。ようやく、
カーニヴァルの終わる水曜日に、『ア
・ジャルヂネイラ』をうたいながら。
まだ頭はカラッポで、重曹を入れた
水をわたしに頼んだ。わたしのヤクザ
ものは本当に病気だった。だってベッ
ドに倒れこんで、靴も脱がなかった。

1週間イビキをかいていた。不機嫌
な顔で目を覚ました。わたしにケンカ
を売った。おお あぶない!

でも わたしは とりあわない。わ
たしのヤクザものは わたしを支配す
る、わたしを魔法にかける。彼は「そ
ういうもの」 だから わたしは悪く
思わない。

シャツをつかんだ、黄色いシャツ。
それに火を付けた。そんな彼が好き。
遊びは終わった。彼はわたしのもの。

2. ザッツ・アモーレ *That's amore*

作詞: ジャック・ブルックス
Jack Brooks
作曲: ハロルド・ウォーレン
Harold Warren

コメディアン・エンターテイナー、
映画俳優であるディーン・マーティンの
1953年のヒット・レコード。それ以来、

彼のテーマ・ソングみたいになりました。彼はイタリア移民の家庭に育ち、たぶん家の中ではイタリア語で育ったはずです。

作曲者ウォーレンは1920~40年代を中心に、おもに映画のための歌を非常にたくさんつくった人で、『チャタヌーガ・チュー・チュー』なども彼の作品です。

お月様があなたの目に当たる、大きなピッツァ・パイのように——それがアモーレ（愛）というもの。世界が光っているようだ、あなたがワインを飲みすぎたときのように——それがアモーレ。

ベルが鳴るだろう、ティンガリンガリン、ティンガリンガリン！そしてあなたはうたうだろう「ヴィータ・ベッラ（美しい人生）！」心臓は奏でるだろう、ティッピティッピティ、ティッピティッピティ！陽気なタランテッラのように。

星たちがあなたに パスタ・ファズールののように、よだれを垂れさせるとき、それがアモーレ。

あなたが通りを、足元に雲があるように踊りながら下っていくとき、そのときあなたは恋してる。

あなたが夢のなかを歩いているとき、でもあなたは夢を見ていると知っているとき、シニョーレ、失礼で

すが——でもおわかりでしょう、あちら 古いナポリのほうでは、それはアモーレです。

3. これから1年分をぜんぶ Pa' todo el año

作詞作曲：ホセ・アルフレード・ヒメーネス José Alfredo Jiménez

ふたたび、メキシコのランチェーラ。ホセ・アルフレードの、テキーラのにおいがするけれど、真剣な愛の歌です。

あなたの愛のために——こんなに望んでいて……こんなに、なくてさびしい あなたの愛のために。

わたしにもう1杯、そしてもっとたくさん注いでください。わたしにこれからの1年分、ぜんぶ注いでください。わたしは真剣に酔っぱらおうと思っている。

わたしがうんと酔っているのを見た人と人が話したら、誇りをもってその人たちに教えてあげなさい、それはあなたゆえなのだと。わたしはそれを否定しないぐらいの 勇気は持っているから。

わたしは叫ぼう、あなたの愛ゆえに わたしは自分を殺していると。人々は知るだろう、あなたのキスゆえにわたしは敗れたと。

今日からこの先ずっと、もうわたしには愛は興味ない。わたしは世界中でうたおう、わたしの痛みとわたしの悲しみを。

わたしはこの打撃から もう起き上がれないと 知っているのだから。そして たとえわたしが望まなくても、わたしは愛で死んでゆくだろうから。

4. わたしは おさなご イエスを見た

Vi o Menino Jesus

作詞：アマーリア・ロドリゲシュ

Amália Rodrigues

作曲：カルロス・ゴンサウヴシュ

Carlos Gonçalves

ポルトガルの生んだ最高の歌手アマーリアさんが歌詞をつくり、長く彼女と共演したポルトガル・ギター奏者カルロシュが、素朴で美しいメロディをつけました。

わたしは見た おさなごイエス。なんと可愛らしく やってきたこと。光の星たちを連れてきた、それが彼の持っているおもちゃだった。

髪の毛は絹だった。それを上げたのはわたしたちのマリア様。ツバメの小さな足で、空の向こうまで歩きまわっていた。

わたしたちのマリア様、わたしの

バラの木。わたしはバラの花でいっぱいになりました、このクリスマス。

2羽の青い小鳥たち。その目のなかから 彼をわたしは見ました。飛びながら 大地に下りていくのを、うたいながら 空へ飛んでゆくのを。

そこにひとつ、そこにふたつ、3つの小さな星たちが光っている。おさなごイエスは進む、星たちの輪で遊びながら。

わたしは見た 幼子イエス。彼の両目は小さな星たち。彼の両手は十字のしるし。彼の小さな足はツバメ。

軽い雲たちが進んでゆく。そして空の星たちが——おたがいどうし言いながら「わたしの男の子はわたしのもの」

わたしたちのマリア様、わたしのバラの木。わたしはバラの花でいっぱいになりました、このクリスマス。

5. 生まれたばかりの おさなごに栄光あれ Gloria al recién nacido

伝統曲・編：ニーニョ・デ・グローリア

Popular - Niño de Gloria

スペイン、アンダルシア地方のクリスマス民謡です。ヘレスの街のヒターノ（スペインのロマ、ジプシー）で、

フラメンコの歌い手の、ニーニョ・グ
ローリアの歌でたいへん有名になった
真曲です。

さて、おさなごは泣いていた。そ
れでもっと美しくなったように見え
た。その両目の涙は 真珠に変わっ
ていった 栄光を！ そして彼の祝
福された母親に 勝利を！ 生まれ
たばかりの子に栄光 栄光を！

おとめは縫っていた、ゆりかごで
着るものを。オムツを編んでいた、
澄んだ月の光線で。

喜び 喜び ベツレヘム！ なぜ
なら今夜生まれたから、1輪のバラ
からこのカーネーションが。

おとめは お乳をあげていた。お
さなごはニコニコ笑っていた。聖ヨ
セフはいいおじさん、よだれをたら
してた。栄光を！ 祝福された母親
に 勝利を！ 生まれたばかりの子
に栄光 栄光を！

つばめ つばめ、どこにおまへの
巣を作った？——ベツレヘムの戸口
に、あの花咲くバラの木のそばに。

喜び 喜び ベツレヘム！ なぜ
なら今夜生まれたから、このバラか
らこのカーネーションが。

6. ポロポ ポロポ ポン Poropo poropo pon

伝統曲 Popular

これもフラメンコのクリスマス曲で
す。2拍子のタンゴ、またはタンギー
ジョというリズムで、セビージャ出身
の女性エスペランサ・フェルナンデス
がうたったものから採りました。

ポロポ ポロポ ポン……

羊飼い 山へ行くとき 羊たち
を放っておく。盗まれないかと心
配なのに。早く走って見においで、
ひとりのおさなごが とある戸口
で眠っているのを。

海に向かっていく帆掛け舟、風
があなたの帆に吹きますように。
航海しているあいだ、あなたは難
船するのをこわがっている。いら
っしゃい、船乗り、すぐに走って、
見においで、ひとりのおさなごが
とある戸口で眠っているのを。

おとめは眠っている。おさなご
は ゆりかごにいる。月は その
顔にキスする。ラバが鳴らしてい
る かわいい鐘の音につれて。

なんと美しく眠っている。なん
と美しく夢見ていること！ アイ
アイアイ……母なるおとめ、
彼の夢を見るでしょう。

7. ロス・ペーセス(魚たち)

Los peces

伝統曲 Popular

これもスペイン。ヘレスのヒターノ
のクリスマスの歌として知られていま
すが、ラテンアメリカ各地でも有名な、
よくうたわれている民謡のようです。

おとめは髪をとかして、カーテ
ンとカーテンのあいだで。髪の毛は
黄金でできている。櫛はすばらしい
銀で。

でも ごらん！ どんなに飲んで
いるか、川の魚たち。生まれてきた
神様を見て。飲んで、飲んでい
る、そしてまた飲んで。川の魚
たち、神様が生まれるのを見て。

おとめは洗っている、そしてロー
ズマリーに干している。小鳥たちは
歌い、ローズマリーに花が咲く。

おとめは1輪のバラをもっている、
彼女の神々しい胸布のところに。聖
ヨハネが彼女にくれた花、クリスマ
スイヴの日に。

でも ごらん！ どんなに飲んで
いるか、川の魚たち。生まれてきた
神様を見て。飲んで、飲んでい
る、そしてまた飲んで。川の魚
たち、神様が生まれるのを見て。



今年はありがとうございました。

来年もよろしく

お願いいたします。

よいお年をお迎えください。

ワールド・ミュージックの館

峰万里恵

齋藤徹

喜多直毅

高場 将美

- 選曲・構成：峰 万里恵
- プログラム制作：高場 将美